



～「使いたいだけ」から「節水しながら」へ～
琵琶湖・淀川の水について一緒に考えましょう！

蛇口をひねると流れてくる水。

水洗トイレ、電気洗濯機、お風呂、温水シャワー…

普段の暮らしの中でなにげなく使っている水。

現代社会で生活する私たちにとっては必要不可欠なものです。

でも、ふと思ったことはありませんか？

これはどこから流れてきたものだろう。

それは琵琶湖・淀川からの恵みです。

しかし、同時に私たちは琵琶湖・淀川に負担を強いているのです。

これからは私たちは、節水など、水需要抑制を進めることを提案します。

今日からできる節水アイデア



こんな毎日から…



リサイクル



雨水の利用



使用量の削減

その他に自動食器洗い乾燥機、全自動洗濯機などの節水型生活機器も有効な取水抑制ツールです。

人間のためだけの水ですか？

琵琶湖は、京阪神1700万人の水源地として毎日の生活を支える日本大きな湖です。この琵琶湖・淀川のおかげで、下流に暮らす私たちが水に困ることはほとんどありません。しかし、人間が好きなだけ水を使える一方で、湖の水位が低下し、魚の産卵や植物の成長などに影響を及ぼしています。一人ひとりの節水が、水辺の生き物たちの命を守ります。

あなたの節水が、ひん死の琵琶湖・淀川を救います。



今は

節水



今は

節水

節水して
琵琶湖の水位が
安定すると…

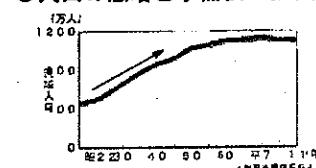


再生

水辺の環境が再生され、
生き物は安心して暮らします。

◆水需要の要請

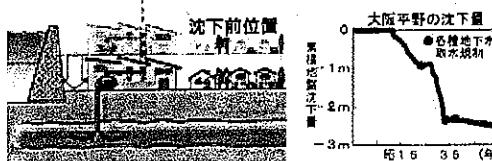
●人口の急増と水需要の拡大



戦前・戦後復興期に、都市部の人口が急増したこと、飲料水や生活用水の需要が拡大しました。

●地下水から河川水への転換

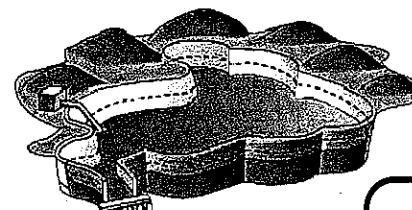
工業用水の需要増加を支えるために、地下水が大量に汲み上げられ、その結果、淀川河口部を中心に激しい地盤沈下が起こりました。



地盤沈下を抑えるため、地下水の汲み上げが規制され、工業用水の水源は地下水から河川水へ求めされました。

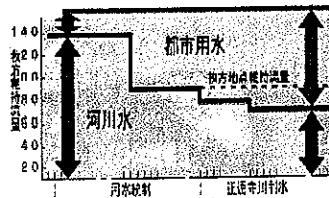
◆切迫した都市用水への対応

多様な水資源開発を行い、増大する都市用水の需要にあてました。



●琵琶湖総合開発事業

琵琶湖の水をより深い水位まで使えるように整備



●維持用水の転用

可動堰の活用や河川の埋め立てなどの事業により、大阪市内の河川の維持流量をも削減し、都市用水に転用

*維持流量：動植物の生育・生息、漁業、農業、河水の濁度の維持（水質）、舟運、堤防の防止、河口閉鎖の防止、河川管理施設の保全、地下水位の維持などに必要とされる流量のこと

◆環境への影響

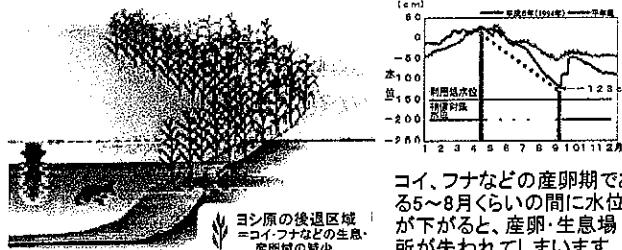
各種水資源開発は、環境に配慮したものでしたが、想定していなかった環境への影響が起きました。

●琵琶湖では…

水位の低下が、琵琶湖固有の生態系に影響を及ぼしています。

●夏の水位低下

梅雨や台風に備えた水位調節と、下記の水利用により、琵琶湖の水位は低下します。急激に水位が低下し、また、低い水位が長期間続く年が頻発しています。



コイ、フナなどの産卵期である5~8月くらいの間に水位が下がると、産卵・生息場所が失われてしまいます。

●河口では…

下流部の大阪市内河川の維持流量が減少しているため、渇水期には、淀川大閘の魚道に水が流れなくなります。



●河口下流では…

流量変動(擾乱)がなくなり、本来、常に砂が動いている砂州に植生が定着してしまうなど、川本来の姿が失われています。



健全な姿を取り戻すために…

●あなたができること

日々の生活の中で、一人一人がちょっとした節水行動を起すごとで、水の利用量を抑えていくことができます。

●行政にできること

少子高齢化や産業構造の変化によって、水の需要と供給のバランスが変わってきています。このため、今ある水をより有効に使うために、ダムや堰などの施設の操作の方法や運用を見直すほか、必要な環境対策を実施していきます。

◆自然環境の再生

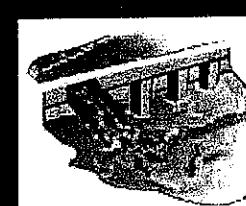
●琵琶湖は…

季節的な水位の変化により、琵琶湖に生育する固有の生物に適した産卵・生息場所が出現します。



●河口部は…

淀川大閘に設置された魚道には常に水が流れ、生物が自由に行き来できます。このことで、大阪湾からの生物移動の連続性が保たれます。



●ダム下流部は…

流量が常に変化し、時には水量が増すことで川にたまつたもや汚れを洗い流します。また、砂州では常に砂の移動が起こり、植物が定着しない姿が保たれます。



開発の効果

◆豊かな日常生活の実現

近畿圏は早くから行われた開発と、琵琶湖の存在により、安定した水の利用が可能になっています。

●供給エリアの拡大



琵琶湖・淀川からの水を利用している地域は、流域外の神戸市など阪神圏や大阪府全域和歌山県境にまで広がっています。